

Bonavita ボナヴィータ



穏やかなる意思表示、ジョバンニほど柔軟な思考と強い気概を内在している造り手はいない。

シチリアの北端、メッシーナの内陸にある町ファーロ スーペリオレ。100 年前はシチリア有数のワイン生産地域であったにも関わらず、現在 DOC Faro をボトル詰めているカンティーナは彼を含めわずか 3 つ。シチリア最古の DOC でありながら最少の DOC という複雑な背景を持つ地域。

2005 年、ジョバンニ スカルフォオーネは母の受け継いできた 1ha ほどの土地「Bonavita」にて、本格的なブドウ栽培とワインの自家醸造を開始する。コントラータと呼ばれるこの小さな土地は、代々家庭用として野菜やオリーブ、ブドウを栽培。今まで一切の薬剤や肥料を使わずに守ってきた土地。彼自身、幼い頃からこの畑で野菜やブドウの栽培に携わったことは、彼の一貫したフィロソフィを形成したといってもいい。

標高が高く(300m)北向きの斜面は、一見ブドウの栽培に不向きのように思える。しかし、シチリアの強すぎる日差しと高温から適度に果実を守り、メッシーナ海峡より吹き続ける北からの潮風は、果実に十分な酸と骨格を、そして南にある手つかずの山は、地域特有の南風シロッコ(アフリカ大陸から海を越えてやってくる、砂と水分を含んだ熱風。シチリアの農作物に多大な被害を与えることで有名)から、自然の盾として「Bonavita」を守り続けている。(ジョバンニはこの山のもたらす多くの恩恵、流れ出る湿度を持った冷気、手つかずの生物環境、自然環境こそブドウの栽培にとって不可欠な物と考えている。)栽培されるブドウはネレッコ マスカレーゼ、ネレッコ カプッチョ、ノチェッラと呼ばれる地域特有の品種、このノチェッラの強い個性(酸が強く果皮の色素が薄い)こそがファーロの個性といっても過言ではない。

彼はこのボナヴィータ:(1ha 標高 280m。古いものは樹齢 55 年にもなる。石灰質、粘土、部分的に砂の多いトゥーフォ土壤)と、2006 年より自ら切り開いた Mangiavacche マンジャヴァックケ:(1.8ha 標高 320m。粘土、石灰が強いのが特徴。2011 年より収穫、醸造)の 2 つの畑より 6000 本の生産。

醸造は自宅の地下室を改造した小さなカンティーナで行う。果実は一部除梗せず、開放桶で 2 週間のマセレーション(果皮浸漬)を行い、自然酵母による醗酵を促す。日々の攪拌を行いつつ木樽にて 12 か月、ボトル詰め後 6 か月の熟成。ロザートは約半日(12 時間)のマセレーションを行い、果皮に着く野生酵母による醗酵を促す。通常造られるロザートよりもしっかりと抽出されたタンニンとアントシアニンは、不安定といわれるロザートの醗酵・熟成を非常に安定させ、SO₂の添加を全く必要としない。ボトル詰めの段階にてごく少量使用するのみ。すべての行為(栽培・醸造すべてを通して)に明確な必要性がある。反対を言えば必要のない行為(薬品の添加や、醸造的な技術介入)をいかに排除していくのか、そこにジョバンニの考えるワイン造りが見えてくる。果実の素晴らしさを失うことのない彼のワインには、本来の果実や香りを失うことなく感じる。そして醸造・熟成によって更なる味わいをもたらしてくれる。

ワイン造りへの誠実さ、穏やかな意思表示を持ちつつ、自身の実践と考察から生まれる、確固たる自信を内に秘めるジョバンニ。彼の目指すメッシーナのワイン造りの背景には、祖父、父が味わってきたこの土地のワインがはっきりと描かれている。ファーロのワイン造りを現在に継承しつつ、自己のワイン造りを突き詰めていく。



ワイン名	ヴィンテージ	種類	容量	メモ
Rosato ロザート	2021	ロゼ	750ml	ネレッロ マスカレーゼ、ネレッロ カブッチョ、ノチェーラ、樹齢 30～55 年。 収穫後果皮と共に 12 時間、醗酵が始まるのを待ってから压榨。一部セメントタンクにて醗酵を行う。果皮のタンニン、エキスを持った熟成の可能性を感じるロゼ。リリースより 2 年の熟成期間によって、素晴らしい状態になりました。気温の高いシチリアで、収穫を 10 月中旬まで待てることにも驚きます。完熟した果皮の持つ香り、複雑さ。魅力的なロザート。
Faro DOC ファール	2017	赤	750ml	ネレッロ マスカレーゼ、ネレッロ カブッチョ、ノチェーラ、樹齢 30～55 年。 収穫後、一部除梗せず果皮と共に大樽で 40 日間、ゆっくりと醗酵が進む。压榨後、そのまま 12 か月大樽にて熟成。セメントタンクに移し 12 か月、ボトル詰め後 4 年以上。熟成期間を経たことも相まって素晴らしい状態です。